

H2653「国際発表」

「天下の公道」と生活道路に関する研究 ～ソフトライジングボラードの実用化に向けた運用上の課題と その解決方法～

PL：埼玉大学大学院理工学研究科 教授 久保田尚

発表者：埼玉大学大学院理工学研究科 助教 小嶋文

The Transportation Research Board 94th Annual Meeting :

交通問題を総合的に扱う国際学会として非常に権威のあるTRBが主催する学会である。5,000件以上の発表からなる約750のセッション、ワークショップが行われ、参加者は約12,000人に上る、大規模な学会大会。参加者は、各国の行政官、実務家、研究者、政府関係者、交通に関わる産業界の人々など、多岐にわたっている。

発表セッション：Traffic Control Device Research（ポスターセッション）

2015年1月13日、10:45～12:30

発表題目：SOFT RISING BOLLARD – FLEXIBLE DEVICE TO IMPROVE
ROAD ENVIRONMENT

(Kojima, A., Tanimoto, S., Kubota, H.)

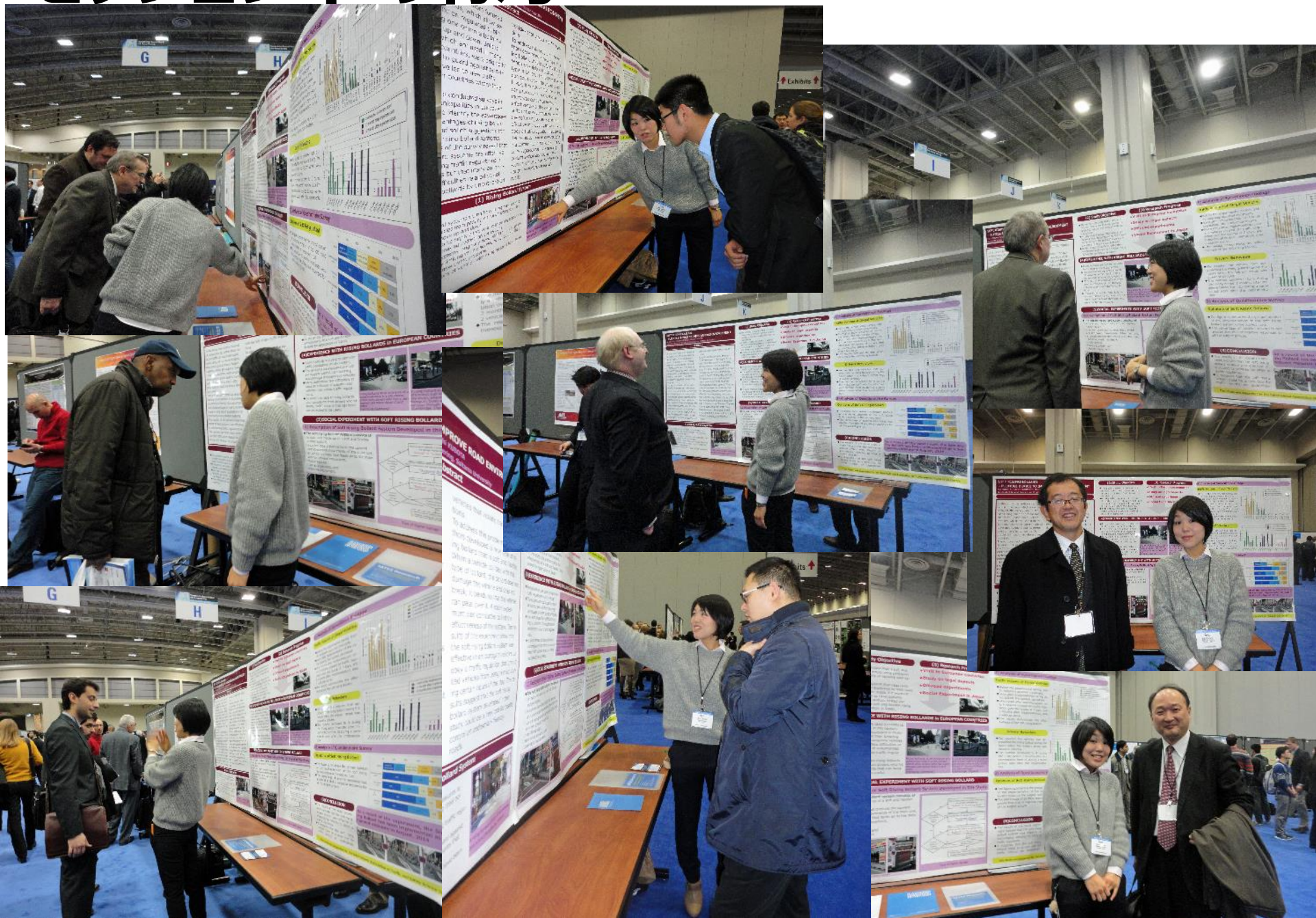
発表論文概要

SOFT RISING BOLLARD

– FLEXIBLE DEVICE TO IMPROVE ROAD ENVIRONMENT

- 2013年度に検討したライジングボラードシステムの研究内容について、新潟市での社会実験の結果を中心に発表
 - ✓ 車両通行規制が守られない道路での交通安全ツールとして、欧州で普及している自動昇降式車止め（ライジングボラード）に着目
 - ✓ 欧州の自治体への訪問において、使用している鋼鉄製のボラードと車両の衝突に悩まされていることが分かった
 - ✓ この問題を解決するため、柔軟性のある素材を用いたライジングボラードを開発し、新潟市で社会実験を実施
 - ✓ カメラ監視映像の分析から、約20台/日いた違反通行車両がほぼ解消され、ソフトなライジングボラードの効果を実証した
 - ✓ この結果を受け、2014年8月から日本初のライジングボラードが、新潟市に本格設置された

セッション中の様子



質疑、コメントの内容

質問、コメント	対応
鋼鉄のライジングボラードは存在するが、ホワイトハウスのような所を守るものであり、公道では使用していない。面白い試み。(アメリカ)	
道路を通らなければならない人は、どうやって通るのか。ボタンを押すのか？	欧州では、ICカード、リモコン、暗証番号の入力等様々な方法が用いられている。このシステムではリモコンを用いている。
ライジングボラードが設置される前は、この道路はどのような状況だったのか？	車両の通行規制を知らせる、可動式の看板が置かれていた。しかし、看板をどかして違法に入ってくる車が存在した。
自動車を使用するものなのに、なぜ歩行者、自転車へのアンケート調査をしているのか？	道路上での弱者である歩行者、自転車を守る対策なので、これらの人々にアンケート調査を行った。
(ソフト素材でも効果が出たため、欧州での衝突事故の解決につながる期待をしている、という説明に対して) 面白い結果だが、各国にはそれぞれの文化があるので。(イタリア)	
(引き返し車両の観測結果について) ライジングボラードの存在は、どのようにドライバーに伝えたのか。	交差点の手前等に周知看板は設置していない。交差点入口には、交通規制標識のみ。

説明を聞いていただいた方々の国等(確認できた方のみ):

アメリカ、中国、イタリア、スペイン、日本

発表以外の活動

- セッション、Exhibitsへの参加
 - 歩行者の交通安全、交通計画、ラウンドアバウト等に関するセッション（口頭、ポスター）に参加した
- ハワイ大学の研究者との交流
 - 学生時代に交流したハワイ大学の教授（Prof. Panos Prevedouros）とお会いし、ハワイ大学ドクター学生のMs. Shiと共に、懇親の機会をいただいた。
 - ライジングボラード研究、Ms. Shiの自動運転に関する研究、今後の交流、その他について懇談した。

